
嘘さえ肯定しうる優しさ (星のカービィ)

翡翠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嘘さえ肯定しうる優しさ （星のカービィ）

【Nコード】

N4606Y

【作者名】

翡翠

【あらすじ】

星のカービィWiiに出てきたマホロアの、心。そして、似たような心を持った魔法使いの、心。

(前書き)

マホロアが好きすぎてたまらない (笑)

そう。

そう、ボクはマホロア。

いずれこの宇宙を支配する者。

この宇宙の支配者になる者。

偽の皮をかぶって、お綺麗に振る舞う、邪悪の塊。

嘘について、いろんな奴をだます。

そうやって、計画を進めていく。

誰が傷つこうが泣こうが、お構いなしさ。

ボクには望みがある。

それは、この宇宙を全部ボクの物にすること。

空も海も、星も大地も、みくんなボクだけの物にするため。

何もかもがボクの物。

全部が全部、ボクの物。

ボクはボクがいずれ手に入れるものを、ひとつ残らず宝箱に詰めるんだ。

そして、誰にも見せてあげないんだ。

これはボクだけの物、ボクだけの物。

ボクを邪魔する奴らなんか、みんな消してやるさ。

ボクは強欲で我儘なんだ。

気に入らないものは、全部排除する。

……いずれば、ボクがゴミ箱の管理人になるのだから。

仲間なんていない。

友達なんて知らない。

そんな戯言、このボクが言えるわけもない。

非道で極悪人のボクは、そういう世界とは縁がないのだから。

傍にるのは感情なんか持っていない、ボクの相棒の船の『ローア』
だけだ。

それだけでいいんだ、それだけで・・・

そう、ずっと、そんな心でいるつもりでいた。

宇宙を支配しうる力の手掛かりを見つけた。

それは、とある荒廃した危険な星に住まう四本首の龍、ランディア
がかぶっている王冠、その名も『マスタークラウン』。

あれの力を使えば、きっとボクは強大な力を持つことができる。

ボクは『ローア』に乗ってランディアに挑んだ。

しかし、予想をはるかに超える力に、非力なボクはあっさりと負け、『ローア』は壊れてしまった。

そして、？あいつら？がやってきた。

？あいつ？は驚くことに、『ローア』のなくしたパーツを集めてあげるとボクに言った。

最初は警戒した。

「こいつはもしかしたらボクのことを騙していて、攻撃してくるんじゃないのか」と。

でも違った。

？あいつ？はただの異常なお人よしだったのだ。

少し前に、この星・・・ポップスターを我が物にしようとしていた魔法使いがいたことを知っている。

そいつはボクよりもずっとずっと強く、狂ったような心を持っていたらしい。

悪戯が大好きで、破壊が大好きな、それはそれは恐れられた魔法使いだったらしい。

でも、そいつは失敗してしまった。

？あいつ？に負けてしまったのだ。

大彗星に願いをかなえてもらってもなお、そいつの祈願は達成することはなかった。

……………できなかったのだ。

そう、できなかった……

でも、ボクはそいつのように失敗しない。

そう誓った。

？あいつ？は正直ボクよりもずっと強い。

だから、このままだまし続けて、ランディアを倒させよう。

そうしてあとは……

ゴミ箱に投げ捨てるのみだ。

だけど、一瞬だけ

魔法使いの気持ちがあったような気がした。

それは無機質な、非常に無機質な空虚な感覚で、体の中から何か
抜けていく感じ。

体の中がとても熱いのに、外はとても冷たい。

ボクという存在が、永遠に続く深い闇の中に落ちていくような錯覚。

ああ、ソウカあ

な
あ
ン
ダ

？あいつ？に出会ってからもう、この結末は決まっていたんだ。

あらがえない、運命だったんだ。

ボクは

ボクは？あいつ？をゴミ箱に入れることはできなかった。

なぜなら

ボクは？あいつ？に、惹かれてしまったんだ。

あの優しさに、ボクは嘘という縛りをことごとく解かされてしまった。

きっと、あの魔法使いもそうだったんだ。

きつと・・・

ボクと魔法使いが、？あいつ？に敗れた敗因は
・
・
・
・
――
――

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4606y/>

嘘さえ肯定しうる優しさ（星のカービィ）

2011年11月17日17時07分発行